22年10月　『問題社員の取扱説明書』

経営者であれば誰しも従業員さんが理念を共有し、会社の方針に沿って協調性を持ちながら楽しく仕事をしてくれたらいいなと思うものです。ところがその思いに反してよもやと思う行動に出たりして頭を悩ますことも多々あるものです。しかも労働トラブルにまでなってしまい、無駄な時間と労力と金銭を出費することにもなりかねません。問題社員は改善すべき問題を問題と認識していませんのでやっかいなのです。社会人として一人前になるようにと懸命に育てようとするわけですが変化がなくがっくりとするわけです。それは無理なのです。この本ではいろんな事例が具体的に示されています。採用に当たって、また採用後もその対処法は大変参考になる内容です。